Project No. 00 | 製造業

ビーコン、センサを活用し製造現場の安全と効率化を実現
リアルタイム位置情報や環境情報を活用し、作業不可軽減を目指す

TRY ANGLE EHIME トライアングルエヒメ

採択事業者名　SCSK株式会社

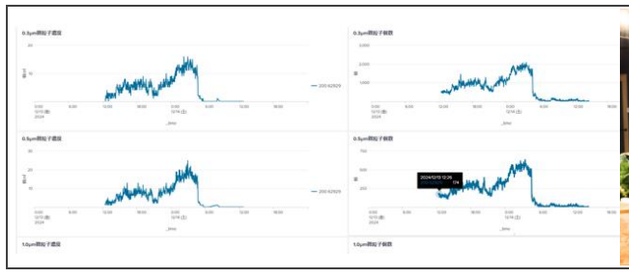
コンソーシアム構成員　株式会社タステム.

勉強会の実施概要

コンソ内部のみ		含む外部	
実施回数の累計	4	実施回数の累計	3
参加人数のユニーク累計	3	参加人数のユニーク累計	73

代表的な実施事例

狙いとゴール	本事業の進捗状況や成果を共有し、デジタル技術やIoT活用への理解を深め、現場での具体的な活用イメージを共有することで、地域全体へのデジタル化推進力を強化する。 また、横展開につなげることで製造業のデジタル化を加速する。
実施の成果	デジタル技術の活用事例紹介により、参加者の理解度を向上。 複数の参加企業からアンケートに回答頂き、DM希望と回答した割合が100%であり、今後のアプローチに向けた土台を構築。
実施アジェンダ 協議内容	・トライアングルエヒメ取り組みご紹介 ・製造業における課題と課題解決ソリューションのご紹介 ・ユーザヒアリング ・デモンストレーション
参加者の一例	・愛媛県内製造業企業（勉強会申し込み12社23名） ・ものづくりDXフォーラム/ラボフォーラム 来場企業（50名程度）
次年度以降の 想定アクション	製造業向け横展開、実証実験の拡大推進。 収集したデータの活用についての事例紹介を掘り下げ、デジタル専門人材の育成を行う。



データ活用・協議の具体例

重要指標例

熱中症閾値や微粒子数の可視化を行い、閾値を設定
⇒①データに基づいた適切なタイミングでの水分補給、休憩取得の指示が可能
②換気等による効果や現場の安全度を可視化することで従業員の安全安心につなげる

	実装前	実装後
データ取得	• ヒトやモノ探しは目視などで行い、探し回ることもあり。 • 環境情報の可視化は特に行っていない。	センサー、ビーコンにより • ヒト、モノの所在把握、可視化 • 環境情報の収集、可視化
データ利活用	• 特になし	• リアルタイムで最新状況を把握 • 集計画面にて過去データの推移をグラフで可視化
実行	• 経験、体感により各作業者が独自の判断で作業を実施	• これまでの経験に加え、具体的なデータを基に指示だしが可能 • 休憩取得遅れなどによる重大事故の発生確率を低減
協議業務反映	• データがないため従業員同士での協議材料にはしづらい	• 上記で可視化されたデータに基づき、客観的な指標に基づくノウハウ共有や意見交換を実現

代表的な実施事例

収集した環境情報を基に、翌夏での対策案について協議

項目	これまで	データ利活用・協議を踏まえて
熱中症対策	各自の判断で休憩を取得	WBGT（熱中症指数）40℃超過日には1時間おきの休憩・水分取得を必須とする

Copyright © EHIME Prefecture. All rights reserved.